

# 中国海軍南海艦隊が対潜能力を強化

漢和防務評論 20180106(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国海軍は、南海艦隊の対潜能力を強化しつつあります。海南島の陵水基地には、対潜哨戒機 Y-8Q が真っ先に配備され、同時に早期警戒管制機 KJ-500 も配備されました。中国海軍は、3次元空間の対潜作戦を行おうとしているようです。この陵水基地は、かつて米海軍の EP-3 が中国海軍の J-8?戦闘機に衝突され緊急着陸した基地です。中国海軍は、大型機の配備に伴って滑走路の改修や新たな施設の建設を行っています。



海南島の陵水飛行場 (KJ-500 がエプロンに 3 機) (Google Earth2017 年 12 月の画像)

KDR 北京特電：

中国海軍の消息筋は次のように述べた：中国海軍は海南島の対潜作戦能力を高度に重視し、最近完成したばかりの 4 機の Y-8Q 型対潜機を陵水基地の海軍航空兵第 9 師団に配備した。海軍は、編制改革の後、元の海軍航空兵第 9 師団陵水基地にすでに KJ-500、Y-8Q を配備した、と。外部世界は KJ-500 が海空軍に装備され始めたのを初めて知った。現在、配備予定の飛行場では施設の改修が行われている。Y-8 シリーズの特種航空機は、以前から配備されていた J-8II 戦闘

機とは滑走路に対する耐圧要求度が異なる。したがって耐圧強度を高める必要がある。このほか新たに格納庫が建設されるが、計画では2017年には完成することになっている、と。

海南島の南海艦隊の対潜能力を強化することは、予想されていたことである。なぜなら現在、第2核潜水艦支隊にすでに4艘の094戦略ミサイル核潜水艦(SSBN)が配備され、これらのSSBNの安全を確保するためには、3次元空間の対潜作戦を行う必要があるからである。このことから、この海域で、米海軍偵察機及び潜水艦による094に対する追跡活動が頻繁になる可能性がある。漢中航空機会社は、Y-8Qシリーズ哨戒機の大量生産を実施中で、現在まず最初に南海艦隊に配備されたものである。

以上